

令和5年度 第2回認定こども園教育・保育要領に基づく施設関係者評価 〈自己評価〉及び〈公開保育〉		
所属	評価者名及び参加職員名	実施日
摂津峡認定こども園	上田恵子 西浦晴香 植田紗季 清水百合 石田真裕麗 向井ひとみ 福永瞳月 松下奈々	令和6年3月25日
評価の記録		
自己評価の説明を受けて	良い点	乳児においては、園内研修を行ない日々の担当制保育について振り返っている。また、幼児においては子どもの「やりたい」「できた」を実現するために、こども一人ひとりに寄り添い教育・保育が進められている。
	改善点	コーナー保育をすすめる中、月案を基に計画的に進められる中、ドキュメンテーションを作成し教育・保育の視点で進められている。環境を用意する中、職員の知識技能が課題に挙がっているので、さらなるスキルアップを求める。
	更に期待する点	保護者の教育・保育の理解と参画を目指し、「いつでも保育参加」を実施している。子どもたちもとても喜んでいる。地域の子育て支援においては少人数ながら、園庭開放や給食体験を通して親子で楽しんでいただいている。特に食事については好き嫌いで食事の進め方など悩みがある親御さんに対しては参考になる様である。その中で必要とする子育ての支援について対話を通して模索しているが、当園においては大切な課題と捉えている。一時保育とは別に、乳児による親子保育参加について、取り組みの内容を諮り実施していきたい。
保育の様子を見て	良い点	安全安心を前提に教育・保育を心がけている。乳児、幼児の各担当において環境保育の大切さを念頭に教育・保育を運営する中、子どもの主体的で対話のある学びの機会を意識しながら運営が行われている。
	改善点	コーナー保育を実施する中で、より良い環境を作り出すために職員会議を行い教材や用具の充実と共に、「子どもの主体性」について、職員のスキルアップも含めて、探求しながら教育・保育をすすめてもらいたい。
	更に期待する点	職員の退職や異動による教育保育の理念や目標について、認識の齟齬による迷いが教育保育の運営において十分に話し合いが出来ているかどうかの検討が必要と考える。職員同士の対話が十分に行われ、自身が職場内での存在が認められてこそやりがい生まれ、そこにいる子どもへの関りが充実するように思うので、自分の意見や思いを受け止められるような職場風土を構築していったらいい。
その他	創立10周年を迎え、図書コーナーの移設やダムウェーダの設置を行うことで、環境の改善により効果が出ている。図書コーナーについては更に特別な空間ができて、ゆったりとした空間が生まれた。また、ダムウェーダ設置により食事の運搬がスムーズに行われ、職員の負担軽減と時間の短縮により環境が整備された。	